



城北川

きのう・きょう・あす

街を流れる、一級河川(城北川の概要)

私たちの街を静かに流れている、城北川を歩いてみました。城北川は大阪市の東部、城東区・旭区・都島区、35.6万人が暮らす3つの区を、70年間黙って流れています。

城東区今福2丁目の寝屋川右岸から、都島区友淵町の旧淀川左岸に至る人工の水路。全長は5.6km。旭区2.2km城東区2.1km都島区1.3km。川幅は40m、平均水深は3.5mです。

昭和15年(1940)、城北運河が完成しました。大阪市内で開削された、最後の運河(臨海部をのぞく)です。それから45年後の昭和60年(1985)、「城北運河」は1級河川「城北川」に指定されました。工業製品や原材料を船で運んだ生産運河から、人と生きものがいっしょに暮らす快適河川へ…。時代が移り、その役割も変わってきました。

住民のための快適な水空間づくりが始まり、工場の郊外移転や国や大阪府の補助により護岸工事が進められました。城北川は、ふるさとの川・モデル河川に指定され、“うるおいとふれあいのある水辺”に生まれ変わります。水面を眺めながらウォーキングやランニングする遊歩道、川に隣接した彫刻モニュメント広場、滝の流れと水の音を演出した清流広場、護岸の階段からの魚釣り、恋人たちの語らい。

水とたたかい、水を生かし、水とともに生きてきた大阪。城北川は、旭区未来まちづくりを夢みながら、きょうも微笑んでいます。



■一級河川の標識
(大阪府の管轄 新森小路橋附近)

■城北川旭区域の
最下流にある西浪橋公園



運ぶ河から、歩く川へ(城北川の歴史)

城北運河は、第二次世界大戦が始まる前年、昭和15年(1940)12月、寝屋川と大川を結んで開削され、流れはじめました。70年間の歴史を、年代順に記述します。

大正時代(1912～1926)

この周辺は集落が点在する、のどかな田園地帯が広がっていました。

昭和3年(1928)世界的な不景気

「城北運河」都市計画が決まりました。大阪東部の開発として、区画整理とともに、寝屋川以北の工場地帯の開発と運河計画が作られました

昭和10年4月(1935)

大阪市による開削工事が始まりました

昭和15年12月17日(1940)第2次世界大戦勃発

5年8ヶ月の年月を経て、大阪最後の都市部運河「城北運河」全長5.6kmが完成しました。

昭和30年代後半(1960～1964)東海道新幹線開通

河川地域の発展による工場廃水、住民の生活廃水の増加により、最悪の汚濁水質が測定されました。

昭和41～45年(1966～1970)高度経済成長期

工業、生活廃水の運河流出をなくす下水道幹線の設置
河川公園、遊歩道が整備されました
阪神高速道路守口線の工事が始まり、完成しました。

昭和45年(1970)大阪万博開催

大阪湾の潮の干満にあわせて、水門を開閉。水質の悪い寝屋川の水を廃し、水質の比較的良好な大川の水を導入大幅に水質改善されました

昭和50年5月(1975)経済安定成長期

城北川の左右、両岸に遊歩道が完成しました

昭和60年(1985)阪神タイガース優勝

城北運河から、1級河川「城北川」に指定されました

昭和62年(1987)バブル経済崩壊

”ふるさとの川・モデル河川”に位置づけられました



■開削時の城北運河と旭区紹介(夕刊大阪新聞社昭和13年/資料:大阪市史編纂所)



■工場が立ち並ぶ昭和40年頃の城北運河(写真:旭区ホームページ)



■現在の城北川(北葦橋から平成21年10月撮影)